

発表梗概作例（書評用）

西洋史学演習「ドイツ近代史の研究」 授業名など、発表の場所を記す。

発表の表題を記す。論文名は「」、書籍名は『』でくる。発行者、発行年も忘れないように。

待兼花子「第三共和政時代の女性労働政策 イデオロギーと現実」阪大太郎編『近代史における法と都市』豊中書房、2005年

200×年10月25日

西洋史学専修3年 西洋はな子

発表の年月日、発表者の名前

論文の内容

文献を読むときは、問題設定をつかみ出すこと。できれば、簡条書きがよい。

I. 急進社会党の女性政策

本論文の問題設定：

- ・ 社会党は、自ら掲げたイデオロギーを実践したのか
- ・ 同党のイデオロギーは、現実に応じた結果をもたらしたか
- ・ 現実とイデオロギーの齟齬に対して、同党はどう対処したか

本論文の対象：

急進社会党の対女性労働政策 設定された問題を、何を対象にして解くのかを理解する。

余白は多い目にとる。聞き手が書き込みできるように。

II. 女性労働 概念の歩みと百年間の現実

1. 女性労働の概念

概念の拡大 「シャドウ・ワーク」の発見
家事労働と職業労働の関係

2. 女性職業労働の百年間

就業人口中の比率は、過去100年30%強の水準を保つ
業種・職種の変動

キーワードを中心に簡潔に記す。足りない部分や、論理の筋道は口頭で言えばよい。

III. 第三共和政時代の女性就業の変化

1. 前半期

.....

2. 後半期

.....

IV. 女性職業労働をめぐるスローガンをめぐって 理念と実態

1. 「女性は家に属す」

章、節ごとに内容を紹介する。

2. 「女の本性に合った仕事へ」

V. 第三共和政時代の連続性と特異性

資本主義体制下では女性の就業率は一定

女性が職業外労働を課せられているから

この時代も、その例外でない

本論文の結論：

・同党のイデオロギーは、現実には実現しなかった

女性労働の「周辺化」を生んだだけ

・スローガンも、現実に配慮した弾力的な適用

女性職業労働に関しては、第三共和政時代は前後の時代と連続的

この時代の特異性：女性の再生産労働への注目

結論が何かをつかみ出す。その際、冒頭の問題設定と対応しているか(その答えとなっているか)に十分注意する。できれば、問題設定と対応した箇条書きがよい。

当該論文についての報告者の疑問、批判、評価

1. 「～」という概念は、内容の説明が十分でない。
2. 第～章の主張は、…という事実を軽視しており、論理に飛躍がある。
3. フランス近代における女性労働の歴史を通観したうえでの立論であり、したがって第三共和政の位置づけが説得的である。
4. 冒頭の問題設定に対応した結論が明記されており、論文としての論理性はすぐれている。

以上の内容紹介を承けて、今度は報告者としての意見を記す。

評点：80点

評者としての評価を明確にするため、評点をつける。

論文としての良否、研究史上の意義などを述べられればさらによい。

参考文献

1. 大阪二郎「第三共和政における工場労働の実態」『待兼山論叢』史学編、69、200x年
2. 阪急電夫『ジェンダーと歴史』豊中書房、200x年
3. 待兼山子「近代史における女性労働の社会的位置付け」石橋駅雄編『歴史のなかの女性労働 理論と現実』豊中書房、200x年

本発表を作成するにあたって参考にした文献を一覧にして挙げる。筆者名の五十音順あるいはアルファベット純などで配列する。